



学校だより

《学校教育目標》 (知) 主体的に学ぶ生徒
(徳) 正しく判断できる生徒
(体) 心身を鍛える生徒

<No. 12> 令和8年2月27日

さいたま市立白幡中学校

〒336-0022 さいたま市南区白幡2-18-13
TEL 048-861-3203 (学校)
866-5789 (相談室)
<https://shirahata-j.saitama-city.ed.jp>

補助輪

校長 小倉 弘一

卒業生の保護者の皆様、卒業式を迎えるにあたり、これまで陰となり日向となり、手塩にかけてお子様を育ててこられました皆様のお喜びは、如何ばかりかと推察いたします。3月13日(金)は、これまで愛情込めて子育てされた保護者の皆様の一つの区切りとなる卒業式でもあります。

私は、保護者や教職員、地域の方々など子どもを支える大人は、自転車の補助輪のようなものだと思います。

子どもは未熟なため、まだ一人では正しく安全に人生を歩む(自転車をこぐ)ことはできません。悪路や障害物に出逢い、右へ左へとよろけて転倒し取り返しのつかない大きなケガをしないように、保護者や教職員が左右の補助輪になって、愛情込めてサポートしてきました。この世に誕生して以来、補助輪は数えきれないほど多くの場面で(それこそ子どもが気付かないところでも)、そっと子どもを支え続けてきました。



2/7(月)夜の大雪で綿帽子をかぶった校舎

さて、間もなく青学年の子どもたちは義務教育を終え、白幡中学校を旅立ちます。

たくましく成長した卒業生たちに、もう補助輪は必要ありません。自らの足でたくましく自転車をこぎ、バランスを取り、スピードを上げて新しい世界へ漕ぎ出していきます。羽ばたくその後姿を見届けるひと時は、支え続けてきた補助輪にとって、何にも代え難いほど悦ばしい瞬間です。

夢をもって無限の可能性を追いかけて、広がる将来に漕ぎ出す卒業生たちは、もう後ろを振り返ることはありません。そして、必要なくなった補助輪のことは、いずれその存在をも忘れてしまうことでしょう。愛情をこめて支えてきた補助輪にとっては少し悲しいことですが、それは子どもが成長し、安定して自転車を漕ぐことができている証でもあります。だから私たちは、忘れられて本望です。

補助輪は、卒業する青学年の生徒たちが、いつかは別の誰かの補助輪になってくれることを願うのみです。

本校学校ホームページの「今週の1枚」コーナーにて、本校生徒の学校教育活動の様子を写真入りで紹介しています。おおむね一週間に一回程度のペースで更新しています。是非ご覧ください。※ユーザー名とパスワードは、学校安心メールとスクリーンでお知らせ済みです。

